

夏山雜談

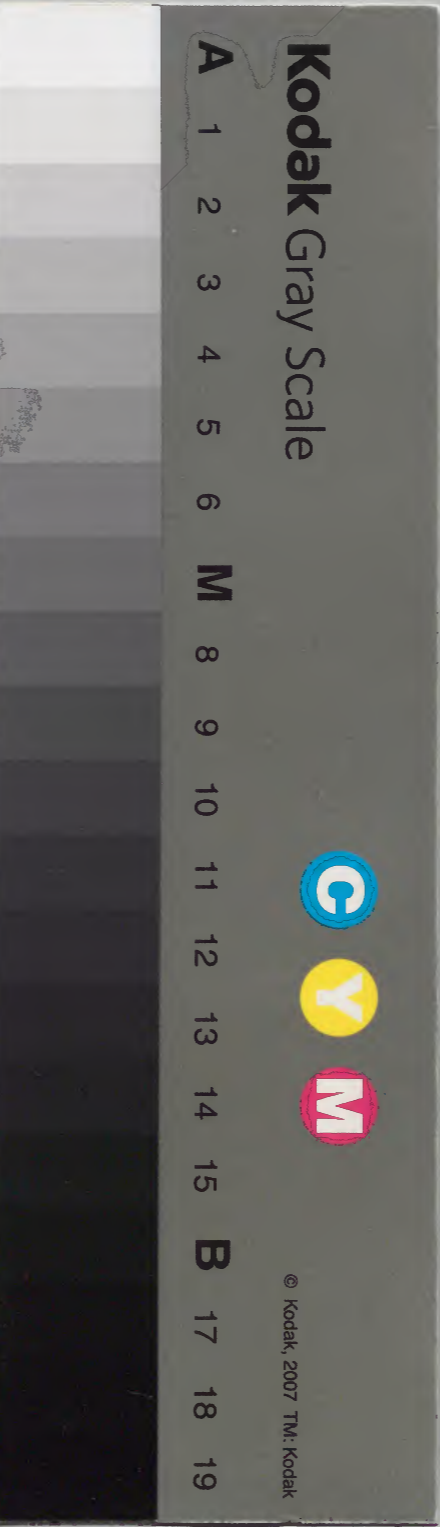
番外書冊

五

庫	文	閣	內
二	一	八	和
二	七	七	書
函	八	八	
六	五	一	類
架	冊	號	

(五冊)

內閣文庫	
番號	和 18781
冊數	5 (5)
函號	212 55



夏山雜談

五邊草子文庫

華嚴寺

上古天子ノ御子御兄弟ナラテハ親王ニナリ給

又及ナリ是令條ノ定ナリ然ルニ後嵯峨後深草

山後二條ノ御末二世三世ニイタリテ親王宣下アリ

爾来数代ノ御末モ親王ニナリ給ナリ然レドモイツレモ

天子御猶子ノ儀ニテ宣下アルナリ御猶子ノ

ナクシテハ親王ノ宣下ハナキ及ナリ是故ニ高貴ノ

上臈女房ヲ御母代ニシ給フナリ御母代ニタノミ

給ヒタル御方ヲハ御實母ノユトク御シタルミアル及

ナリト承リ及シ

四道ノ博士此外ニ天文陰陽醫道等ニ博士アレトモ
打一カセテハカセトバカリイハ明經博士ト云ナリ
是ヲ大博士トイヘリ中比ヨリ清中兩家ヲ任ゼラル
ナリ清原氏ノ大博士ニナリタルヲ傳博士トイヘリ左
傳ヲ宗トスル故ナリ中原氏ノ大博士ニナリタルヲ禮博
士トイヘリ禮記ヲ宗トスル故ナリト

平氏ノ人位署ニ守平連續ヲサクル者拾芥鈔ニ
見エタリ今爰ニ畧ス按ズルニ諸氏ノ人モ國守及諸司正
タル時略儀ノ書物ニ氏ヲ用井ズ官ト名字バカリ
ヲ書ク者モアリ其時ハ諱ノ連續ニナル名字モアリ

古事記ニ雄略天皇ノ自神トヨマセモフ御影アリ

譬ハ主水正良清陸奥守成政ナトハ諱ノ連續ナリ
正良ハ仁明天皇守成ハ順德院ノ諱ナリ是等ノ
者又ニ心ヲツケテ然ルヘキ者又ニヤトオモハル

二條院ノ御墓舟岡ノ麓ニアリ御墓ニ五重ノ石塔アリ
リシガ千子四郎入道利休此御石塔ノ九輪ヲ取テ己
塔トシ及手水鉢ニセントカヤカル大悪ツノリテ次第
ニ奢リ後ニ私曲ヲセシヨ豊臣太閤大ニ怒リ給
ヒ二條ノモトリ橋ニハリツケニカケラレタリ誠ニ天罰
恐ルベシク加藤肥後守卿モ花山僧正ノ石塔ヲ取テ

中ラウカチ、石燈籠ニシ茶亭ノ庭ニオカレシトナリ、
此灯籠今ニカニカニ夏ハツシムベキ夏ナリ、
本國寺ナリ

光明院御腕疑ノ後、接津國勝尾寺ノ山中ニ御庵
室ヲムスビテ、住セ給ヒ、彼所ニテ崩御アリ、御遺
詔ニテ御庵室ノアトニ葬奉リ、日比御庵號ヲ改
ス光明院ト稱奉ルトナリ、委ク詔運録ニ見エタリ、其
後御墓所モ荒廢シタリ、延寶年中ノ比カトヨ、勝
尾寺ト茅野村ト山中塚目ヲ論シ、大坂町奉行所へ
古屋新十郎長次ハ甲斐源氏小笠原ノ庶流ナリト今、古屋主五衛門安井新十郎ガ父ナリ
訟へ對論度々ニ及ヒ決定セサル所ニ奉行ノ屬士古屋新
十郎彼僧ニ光明院ノ御庵室御墓所ハ夏ヲ同フ

僧是ラシラス、寺ニカハリテ、衆僧ニ同フ、衆皆シラス山中
及近隣ノ郷民ニトトモ知タルモノナシ、爰ニ山中
三人ノ老比丘アリ、彼云我先年此山ニ庵ヲムスビタ
ル時、其地ニ一ノ石塔アリ、光明院ト銘ス、凡人ノ石
塔トオモヒトリノケテ、其跡ニ草庵ヲムスビタリ、
彼石塔今ニ傍ニアリ、モシ是ナルヤトイフ、衆僧大ニ
オトロキ、且悦ヒ、彼御石塔ヲ本ノ所ニ安置シ奉ル
是ニ依テ、爭論ノ地モ勝尾寺ノ境内ニ紛レナク、利運
ニナリシトカヤ、彼古屋堂ニ和漢ノ書ヲ見ル、夏ヲ
好、或時詔運録ヲ見テ、此夏ヲ僧ニ同ヒタル故ニ御墓

所フタ、ビアラハレタリ、是誠ニ古屋氏ノ大印トイ
ヒツヘシ

紫式部日記ニクニオヤトアルハ國母ニテ、天子ノ御母ヲ
イヘリ、源氏桐壺卷ニクニオヤトアルハ天子御母
ナリ、天子ハ民ノ父母ナレハナリ

青ザレト云、モノハ青菱ニテ製シタル菓子ナリ、古ハ高貴
モメサレタルモノナリ、今民間ニ用ル者皆ザレモエナルヤ
一條院ハ猫ヲ御寵愛ニテ、此猫ニ五位ノ爵ヲ賜リ、子ヲ
ウミタルトキハメノトラ附ラレ、女院左右大臣等ヨリ
産養ヲ給ヒタル、夏、小右記及清女ノ枕草紙ニモ見

小右記曰長
保元年九月
十九日、内裏
御猫産子、
院左大臣有
産養事、有
衝重撰飯納
宮衣寄猫乳
母馬命婦時
人嘆之奇恒
事也

エタリ、此御宇、執政以下、三公各御外戚ナリ、カルニサ
ナキ、夏ヲナシ給ヒタルハ、イハレナキ、夏ナリ、モロコシノ
書ニ人君ハ愚ナルカヨシサ、ノミサナキ御アソビ
ヲス、メテ愚ニナリ給フヤウニスヘシ、人君賢ナラバ、我
トモカラハ、誅ニ伏スヘシト、盜跖トカヤガイヒタリト見エ
タリ、ハルカ後ニイタリテモ、時政義時ノ類モ、盜跖ガ
金言ナラスヤ

古今集序曰、ソモク歌ノサ、ムツナリ、カラノ歌モ
カクゾアルベキ云、此文章ニ心ヲツケテ見ルヘシ、先日
本ノ歌ニ六義アル、夏ヲイヒ、次ニ唐ノ詩ニモ、日本ノ

如久六義アルベシトオモハル、トイフ文章ナリ、
是我國ノ文章ノ法ナリ、今世凡下ノ人ナトハ
抑詩ニ六義アリ、日本ノ歌モ是ニテゾラウナド、
書ベキニヤトオモハル、

木曾ハ信濃國ニアラス、美濃國ナリ、古ヨリ誤来
ルニヤ、三代實録元慶三年九月、曾ノ記ニ美濃國
ナル夏アキラカナリ、

位山飛驒國ニアラス、信濃國ナリ、六帖ニ衣手ノ色ニ
サリケリ、信濃ナル位ノ山ハ君カニ、此歌ヲ證
トスヘシ、

トスヘシ

アツニハ日本紀ヨラバ上野國、碓日山ヨリ東ナリ、
古夏紀ヨラハ足柄山ヨリ東ヲアツニトイフベキニヤ、
硯ノ水ニ我影ハツサヌモノナリ、左遷ノ時、其人ノ面
影ヲ硯ノ水ニウツシテ、サタマシ定文ヲ書故ナリ、

杉ノ魚板ヲ常ニ用井ヌモノナリ、是亦左遷ノ時、コシ鱈ノ
鮮ヲ、杉ノ魚板、杉ノ魚箸ニテキリテ、其人ニ居ル故ソ
リト、

不義ノ武士ハ大小ニガギラフ、己ガ志ヲ得テ、次第ニ出身
スレハ、驕奢オユリテ、後ニ寡ヲセシ身ヲセシタルモノ

古今其例スクナカラズ商人ナトモ小商ヲシテ秤
ニテ銀子ヲトリヤリスル時ハ家内モ富豪ハ大商ト
ナリテ天秤ニテ銀子ヲ出納スル様ニナリ家ノホ
ロヒタルモノ多シサレハ士農工商トモニ常ニ奢侈ノ用
心ナクンバアルベカラズ

人ハ生レナカラ大逆不道人ハナキモノナリ小悪ヲ忍ビ
サレ後ニ大悪人トナルナリ小盗人モ又スミノ切ツモ
リテ大盗人トナルニヤ

白木ノ書案衣服ナドニ墨ノツキタルモ其ニ洗ハ
落ルナリ久シクオケザレバイリテオチズ人モ小悪

ニ氣ノツキタラバヤク改メナホスヘシキコメハナホ
ラヌナリ

唯樂磨カ外祖母尾張國名護屋ノ生レテ村瀬
ヲ称号スル家ノ女ナリ四十年前八十四歳ニ
テ世ヲ辞セラレタリ常ニイハレハ輕キ武士ト
イヘトモ常々上下袴モ着セヌハ無礼ナレトモ常
ニ見ツケタル故ニヤサノミ見苦トモ見エヌ女ノ小袖
ハカリ着テ幅廣キ帯ヲ前ニシテ結ヒタル姿ホド
見苦キモノハアラシサレハ女ハ貴賤ヲ論セス常
ニ羽織ハカニ着セタキモノナリトイハレハオカ

シクモ赤オモシロク覺工待ル

三百年以來鎗術劍術砲術柔術アリ世ハ次第ニ多クナリモテユクナリ後ニ又イカナル武術カ起リヤセン

野干キツ子ノ多ナリトイドモ曾我物語ヲ見シ鹿野猪狐狸兔狼スベテ獸ノ惣名ヲイフヤウニ見エタリ狐狼野干トモイハ惣名ヲイフニヤ風邪ノ煩ヲ風ヒクトイフ多公カシヨリノ詞ナリウツホ物語ニ風ヒキ給ヒテントテサハキフセタテニツリ給ヒ源氏明石巻ニハ風ヲヒキアリク

入道ト見エタリ

古史紀ニ土雲日本紀ニ土蜘蛛トアリムカシハ雲ト蜘蛛ハ同聲ニイヒシヤ雲ハ平聲蜘蛛ハ去聲ニイフハナチノサダメナルニヤト或人ノイヘリ鶴鶴ヲ庭タキト歌ニヨメリ西國ノ人ハ石タキトイフナリ百軒鳥ハ鶯ニアラズスベテ諸鳥ノ多ナリトオモハル古今集後拾遺集ニモウグヒスノ題ヲナシテ別ニ入リハ鶯ニテハナキ多知ラレタリト或人ノイヘリ

源氏葵ノ卷ニミツカヒトツト云夏ハ^{ミツヒトツ}ニガニテ三分
一ノ夏ニヤト或人ノイハレシトナリ

古今集ニメドニケヅリ花サストハ^{ホト}著ニ造花ヲツケ
タル夏ナルヤト或人ノ云ヘリケヅリ花トハツクリ花
ノ夏ナリ延喜式ニ見ユ今モ西國^{ミヅク}追ニテハ著ニツクリ
花ヲツケテ神佛ヘサグル所モアリトキケリ
布ノ^モ帽額宿直物ノフクロ^{ハウモン}放免ノツケモノナドヲ祕
説ナリト云夏ハ何人ノイヒ出セシヤ是皆朝廷ノ故
實ニウトキモハ説ナルベシスベテ物ノ秘傳ナド、
イフハ世衰ヘタル故ナリト或人ノイヘリ

○信夫摺ノ石ハ大石ニテ昔ハ高キ所アリシガイツノ
比カ霖雨ノ時岸クヅレテ石モ下ヘ^コビオオク文ノ
アル面ノカタハ下ニナリトエニウツモレタリト陸奥
國福嶋ノ人ノイヘリ

花トイヘバ櫻ノ花ニカギリタルヤウニイヘドムカシハ
サナラヌニヤ花トばかりヨ^レテ櫻ニアラザル古歌多シ
ノドカトイフ詞ハイツニカギラヌ詞ナリ万葉集ニ
和ノ字ヲノドヨメリ秋冬ニモノドカトヨミタル古
歌多シ今連歌ニノドカハ春ノ詞トスルハ意得ヌ
夏ナリト或人ノイハレシ

牡丹ヲ^{ハツカクサ}北日草トイフハ白氏文集ニ花開花落ニ
十日一城之人如狂トアリ此故ニヤ

梓ノ異名ヲ百木王トイフ^{アツサ}ノ良材ナル故ニヤ
萩ヲ鹿ノシガラミト歌ニヨメリ鹿ハハギヲ折テ川
ノシガラミノ如クシテフス故ナリ上又鹿ノ花妻
トモヨメリ

伊勢ニテハ榊ヲ玉串トイフトナリ

○花染トハ露草ニテ染タルヲイフナリ

○アフヒヲカツラノ枝ニツケタルヲモロカツラトイ
フナリ

ヲツケ鳥ハニハトリノ夏ナリ世ノ中サワガシキ
時四境ノ祭トテ都ノ四方ニテ行ハル此時雞ニ木綿^{ユフ}
ヲツケテ放サル故ニカクイヘリトナリ

百花ノ色ノ變ルヲウツロウトイヘドチルヲモウ
ツロウトヨミタル古歌多シ神代ノ卷ニモ故其生
子必如木花之移落トアリ^{チリオツル}此後ト云字ヲチルト
ヨムナリサレバ花ノウツロフト云夏ハ歌ノ躰ニヨリ
テ分別スヘキニヤ

○濃色薄色トハ紫ニカギリテイフ夏ナリ自餘ノ
色ハ紅ノコキウスキ山吹ノコキウスキナド、イ

フナリ

尾花ハス、キノ異名ナリ、獸ノ尾ニ似タレバガク
イフニヤ

月ノ異名ヲ玉桂トイフ、菅家万葉集ニ見エタリ、
方違トハ天一神ノカヲサクル夏ナリ、

夏引ノ糸ト云フハ麻ノ夏ナリ、万葉集ニ見エタリ、
神代ニハ鹿ノカタボ子ヲヌキテウラナヒタルナリ、

亀ハ又後ノ事ナリト、
サガノ、廣澤ノ池ヲ古ハ大澤ト歌ニヨメリ、

ヲミナメシラ万葉集ニ女即花又ハ美立女トモ
見エタリ、

サキタ、ヌクイノヤ千タヒカナレキハナカル、水
ノカヘリユヌナリト云、歌ハ諺ニ後悔サキニタ、
ズトイフコ、ロナリ

常盤ナル松ノミトリモ春クレハ今ヒトシホノ
色ニサリケリト云、歌ハ貧レテ諺ハヌガ上ニタ
ノレニ富テ驕ラサルカ上ニ禮ヲ好ムコ、ロナルヘシ、

餅菓子ノ類ヲ茶ヤノ子ト云、夏オユドノ記ニ見
エタリ、

後蒔トハオクテニアラズ、苗ノハ工損ジテテフタヒ

一クヲイフナリ古歌ニノキニキノオクレテオフル
ナヘナレトアタニハナラヌタノミトソキク此歌ハ晩
年ノ人ニ字問ヲス、ムルユ、ロナリ道ヲアリキサヘ
スレハ遅キ牛モハヤキ牛モトモニ淀(ツクナルヘ
シ論語)日子曰苗ニノ而不^ル秀者有^リ矣夫秀而不
實者有^リ矣夫云コレヲ考ヘアハス(シ)

シカ一ノカチハ藍染ナリ古歌ニタノ一スハシカ一ノカチ
ノ色ヲ見ヨアヒソメテエソソフカクナルナレ<sup>藍ハア井、
逢ハアヒ、
ノ假名ナリ、古人モ假名ヲ
アヤ一ラレタルナル(シ)</sup>
フセゴハ伏籠ナリモトハ竹ニテ作りタル籠ナリ

源氏若紫ノ巻ニラセゴニ雀ノ子ヲイレヲキタル古又
見エタリ

コレホレ歌ヨカラヌ歌ナリ詩文章ニモユレラレア
リ源氏物語ニ見エタリ

ミサヲトハ物ノカハラヌトキハナル夏ヲイ(リ)松ノ
ミサヲトイフモ霜雪ニ色ノカハラヌ夏ナリ

○後世ノ髪切尼ハ髪ヲツカ子テ本ヲ結ヒ末ヲキル
ナリムカシハ額^{ヒタヒカシ}髪ヲキリテカホニカルホドミシテウ
シロ^キ衣ノエリノアタル所ニテフツトソギテ本結ハカ
ケサルトナリ是ヲ垂^{タレ}尼トイヒントナリ

都ニテホト、ギスハ實永ノ比ニテハ四五月ハ多クナキ
タルナリ、雨シゲキ年ハゴトニ多カリシナリ、其後ス
クナクナリテ、近比ハ一聲モキ、タル人モナレトナリ、
アガリテ、世ニモナキ事ノアリシニヤ、上東門院ノ
女房達加茂ノオクヘ、夕ツ子ユキタリシ、夏、清女枕草
紙ニ見エタリ、又、鶯モ其比ハ内裏ノアタリニハナカズ、北
野ナドニハ希ニナキタル夏、枕草紙ニ見エタリ、
天竺ニ天ヲ蘇羅ト云、我國ニソラトイフハ遠ク天
竺ニ通ヘリトナリ、

高砂ハ山ノ惣名ヲイヘリ、播磨ノ国ノ高砂ハ地

名ナリ、

○御遊アソビ敵トハ高貴ノ学問、詩歌、管絃、其外御遊ノ
御相手ノ友ヲ云フナリ、兒童ノ戲遊ノ友達ヲモ
アソビ敵トイヘリ、相敵對スル故ナリ、
俗ニイフ、食ノサイノ夏ヲアハセトイフナリ、ウワ
ホ物語、清女枕草紙ニモ見エタリ、
文書ヲ封スル古又ヲ、噺樂磨カ祖母ノ常ニラニスル
トノイハレハレシナリ、古キ物語ニ文ヲフニスルト云、又
見エタリ、

○ゴダナトハ後漢書註、鄭玄曰、禮記ニ云、后之言、

後言、在夫之後、故以女ヲ謂後達ゴキチ

アセルトハ盛ナリシモノ、オトロハ物ノ色ノカハ
リテ、アシクナリ、女ヲ若又オト耳、源氏相壺卷歌
ニムスヒツル心モフカキモトユヒニユキムラサキノイ
ロシアセスハ

近世ノ軍物語ナドニ、悴士コセガフヲヒ又カセサフヲヒ
トイフ名目アリ、苗字ヲモクタルバカリニテ、輕キ

武人ヲイフヤウニ見エタリ、按ズルニユセ侍ハ侍ノ
官アリテ、五位衛府ナドヲイフナリ、衣冠スル
程ノモノナリト、雅ニヤスケニヤ世表抄ニ見エタリ、サレバ

無位無官ノ凡人ナドヲユセ侍トハイフニジキニヤ

畿内及繁花ノ地ハ萬ニハヤリ、夏多クテ、詞風俗

モ次第ニウツリナハルナリ、西国追中ニモ薩摩國

肥後國、球麻郡ナドノ人ノ言語ハ上方ノ人ノキ、

テハ耳オトロカス夏ノミ多ケレドモ、多クハウツ

ホ竹取源氏物語、清女枕草紙、四ノ鑑水鑑大鑑、今鑑増鑑

大和物語等ニアル詞ナリ、彼所ハ五百年

来、ウゴカヌ地ニテ、他國ノ人モ多クイリユエヌ

所ナレハ古キコトバ猶ノコリタリ

寛永、肥前國有馬攻城ヲ、水野日向守勝成朝臣

竹釘タケクリ六類
ナキト云々

人竹釘タケクリ軍ト云ヒ給ヒシトガヤ

○馬代ノ目錄ナドニ黄金十兩ト書ハ小判ノ十
兩ニアラス金一枚ノ重ナリ黄金百兩ハ金十
枚黄金千兩ハ金百枚ナリ餘ハ是ニ准ズヘシ式
正ノ書物ニ小判ノ數ハ用井又重ナリト

○刀劔ノ代金千貫ハ金五十枚ニ充ルナリ百貫
ヲ五枚ニ充タルモノナリ此兩様ノ代付ニ何ノ
差別モナキ重ニテ時ヨリテ二百貫トモ書キ
十枚トモ書ク重ナリトイヘリ又二枚五兩ナト云
時ノ五兩ハ小判ノ五兩ニアラス金一枚ヲ假ニ

十兩ニ充タル數ナリ

大織冠公ヲ日本紀ニ中臣鎌子連トアルハ鎌足ヲ
鎌子ト後ニ誤記セシヤ欽明ノ朝中臣連鎌子ト
云人ハ別人ニテ時代モ違ヘリト或人ノイヘリ
梓弓ハ梓ノ木ニテ作り真弓ハ檀ノ木ニテ作ル弓
ナリサレバユミノ弓ト云フベキヲ檀ノ訓ノ中ニユ
ト云重ノアレハカサ子テユミト云ハス是古訓ナリ
ト先達ノイヘリ

美作ノ國ハ邊土ナレトモ各所ノ古歌オホキハ古
ヘ大嘗會ノ主基ノ國ニ用井ラレシ故ナリ

葵祭ノ勅使ハ下鴨ノ神前ニテハ解劔上加茂ニ
テハ帶劔シ給フトナリ下鴨ハ女神ナルガ故ナリ
ト或人ノイヘリ

○清凉殿ハ中殿トモイフ常ニ御殿トミイフモ清
涼殿ノ事ナリ此御殿ハ至尊出御ナキ時トイヘ
トモ地下ノ人ハ一イシ夏ハナラヌナリ紫宸殿ヘハ
出御ナキ時地下ノ人モハバカリナシト聞リ
左近ノ櫻ハ近衛殿千時左ヨリ献セラル右近ノ橘
ハ關東ノ仰ヲ奉リテウケタマハ小堀ニ右衛門是ヲ植此時
大樹右大將タルニヨツテナリト承ル

何ニテモ物ノ相應セザル古又ヲフサハタトイフハ
古語ナリ古又紀八千弔神ノ御歌ニ見エタリ
石ノ多キヲ石ムラトイフ家ノ多キヲ家ムラトイ
フムラハムラガルニテ群ノ字ナリ村ヲムラト訓ズ
ルモ民家ノオホキナリ

○童女ノ裳モギ着シテヲトナシキ姿ニナルヲナゴニ
ナルト云ナリ男子元服シテヲトユニナルト云ト同シ
皇女ノ御裳着ノ腰結ハ大臣ナドノ御所作ナ
リ高貴ノ御家ニテモ一族ナドノ宿老ノ人ヲタ
ノミ給フ古又ナリト男子元服ノ如冠ニ同シ

薰物ヲアハセテ土中ニウヅミニスクニ梅花梅樹ノモト
菊花ハ菊ノモトニ埋ム古例ナリト

薰物ナドヲカグトイフハイヤシキコトバノヤウニイ
ヘトモ源氏物語ニ薰物ノ香ノフカサアサ、ヨカキ
アハセ給フト見エタリ

節分トハモハラ立春ノ前日ヲイヘドモ四季ニモ
節分トイフ古又古書ニ見エタリ

○放出ハナチデトハ本殿ヨリ別ニ造リ出シタル所ナリ俗ニ
書院小座敷ナド云ガコトシ

村ノ名ニ放出ハナチデト云所アリ中サキ古社園ナド界割出

シタル地名ナルニヤ今ニ云フ新家新在家ナト、
イフゴトキカ

國府コフハ國司ノ居所ニテ國政ヲトリオユナフ所ナ
リ駿河ノ府中豊後ノ府内ナドハ其國府コフノウ
キトイフ又ニヤ又別府トハ國府ノ地ヲワケタ
ル所ナルニヤ別府ト云フ地名西國ニ多シ

太平記山門攻ノ段ニ本間孫四郎ガ強弓ヲイハント
テ白木ノ弓ノホユ短ニ見エケレドモ尋常ノ弓ニ立
雙ベタリケレハ今ニ尺アリホユ長ニテアリケルト書
リイカヲトキ弓モ常ニ尺アリニ尺アリモ長

クハ弓ノカハツヨカル^{チカラ}シトオモハル

自己ノ手ニア^{キリ}リテ握^{キリ}ノフトキ弓ハ手ノ中^{ウチ}アシク

テ射ラレヌモノナリ是故^ニ近代ノサシ矢弓ハオユヲ

切^{キリ}ツバメテ弓^{チカラ}ニカヲ^シ矢ノヨク飛^{トゲ}ヤウニスルナリ

少^チシテモ短キ弓ハカノ強キモノナリ軍用ノ弓

モ弱キ弓ハオユヲツバメタルガヨシトナリ

己^{オガシ}自恣ト云詞ハ己ガ心ニカセニスル古又ヲ云ナリ我カミ

ト云ガコトシ自恣ノ二字ハ音ナレドモ古ヨリ歌ノ詞

書ニモモ千井歌ニモ秋風ノ四方ノ山ヨリオノガシ

吹テ千リヌルモ^チ千カナシモトヨメリ物語ノ書ニ

モオホク見エタル詞ナリ心ニカセナル又ヲ和語ニ

シトイフ故^ニ後ニ自恣ノ假名ヲ用ルニヤ

○書物ヲ見ルニ忘ル^ニシキ所ナド^ニ此^ニテシラツクル

ヲツ^ニシルシトイフ古キ物語ニ見エタリ

放嶋ノ試^{シロベ}トイフハ学生ヲ試ルニ池中嶋ナドニオ

キテ詩文章ヲ作ラスル又ナリ人^ニ談^ニ合サセ

ジキタメナリウツホ物語ヲ^ニアサ^ニ試^ニノ題ヲ賜^ニリ

テヒトリ船^ニノセラレテイテタリトアリ是放嶋ノ

コロミナリ

○進士ト云ハ非儒ノ人^ニ大^ニ學^ニ察^ニ入^ニテ及^ニ第^ニシタル



ヲイフナリト

○近比印行ノ書物ニ三位法印玄旨三位法印一路十
ト、書キタルアリ是ハモトハ二位三位ニテアリシ法印
ゾトイフヌナルニヤ二位三位ハ俗位法印ハ僧位
ナリ往古ヨリ俗位僧位ヲ兼帶セシ人モアルニ
ヤイニダカウカヘス

○民間凡早ニイタリテモ神別皇別諸蕃ノ三
姓ニモル人ハアラサルナリ世ニオチバフレテ先祖
ノ氏ヲシラザルハ多シカル人モシ氏ヲ称セス
シテ叶ハヌヌアラバ藤原氏ヲオシテ称シテハ

僧官ニイハレテ付テ
テ呼ナリニ位ノ子ニ
位僧都ニ位法印
ナト云ナリ平家物
語ニ三位禪師ト
ルハ三位中納言
六代ニイハレタリ
三位法印一路ト
上書受覚未キキ
事ナリ

難ナカルヘキニヤ如何トナレハ今世故アリテ官
位ヲ賜ハル時ニ其姓氏ヲ失シテシラザル人ハ宣旨
ニ藤原ノ某ト書下サル、ヌナリトサレバ氏ヲ
シラサル人ハ藤原ヲ称シテ難ナカルヘシトオモ
ハルト或人イヘリ

○神職ノ人官位叙任ノ時姓氏ヲ失テ知ラサルハ
宣旨ニ大神朝臣ト書下サル、ヌナリト

出家スルハ貫属ヲハナル、故ニ姓氏ハナキナリ此故ニ
出家ハ皆釋氏ヲ称スルナリ明雲座主ハ村上源氏
ノ槐門ヨリ出タル御人ナリトモ流罪トキ藤井

松枝ト姓名ヲツケラレタリ

イニシハ非人ト云フ姓ガアリタルナリ橘逸勢ヲ伊豆國へ流サレタル時橘氏ヲ改テ非人姓トナシ給ヒ數年ノ後其子ヲ召取サレテ非人姓ヲ改テ本姓ニ復サレタル事續日本後紀ニ見エタリ

古^キ着^キ弁^ス鏡^テトイヒシハ今俗ニ番具足トイフ是ナリ葬家ノ門戸ノ間^{シキミ}ニ薦^{コモ}ヲカケ玄關及間毎ノ長^{ナゲ}押^シニ種^{タネ}ヲカケオク夏ハ内外ノ地ヲ隔^{ヘタテ}ヌトイフコトニテ出入ノ人ニ穢^{ケガレ}ヲウケサセ^シジキタメナリ

堂上方ハ常ニ神衣多キ故ニ恪^{カウジン}勤^{ジン}ノ人ハ藁^{ワラ}ノシベ^イ一寸バカリニ切テ懷^{イダカ}紙^{カミ}ノ間ニ入^レ置^キ葬家へ入^ル時ハ匍^{ハイリ}匍^ク入^ク長^{ナゲ}押^シナドニ此藁^{ワラ}シベ^イツサシヲキテ出入スルナリ是モ間^{シキミ}ニ薦^{コモ}ヲカケルコトニテ穢^{ケガレ}ヲウケザラニガタメナリト

往昔旅行ノ時ハ麓^{スリ}和名ハタケ須利^{ハタケ}境^{サカイ}和名波太古俗用^{ハタケ}旅籠^{リヤウ}ニトイフモノヲ持セシナリ共ニ竹器^{タケモノ}ニテ旅ノ具^{ツグ}篋^{カサ}笠^{カサ}人馬^{ヒトウマ}ノ食物^{シヨク}ナドヲ入テ持セシトナリ後世ニイタリテハ萬ノ事花菱^{ハナヒ}ニナリテ挾^{サシ}箱^{ハコ}篋^{カサ}箱^{ハコ}合^カ羽^ウ箱^{ハコ}沓^ツ籠^{カゴ}ヤウノモノニカハリテ常ニ行列^{リョウゲツ}ノ備^{ツク}ノ具^{ツグ}ニナリタルナリ

旅行ノ餉カシヒヲイレル籠カゴヲ本字トイヒシヨリ
轉ジテ旅ノ餉カシヒヲモハタゴトイヒシトカヤ後世驛路ニ
テ旅人ヲ宿セシムル所ヲ旅籠屋ハタゴヤトイフハ此故ナリト
盜賊ヲスリトイフハスリ鹿ヤウノモノヲモテキテ盜ミ
タル物ヲイレテイヌレバガクイフナルヤト古人モイ
ヘリ古歌ニ旅人ハスリモハタゴモナシキヤ早ヤクイ
ニシメ山ノト子カ夕称夕達此歌ハ山賊ヤマダチニアヒテオモエト詔言ミコトノコトシタル歌
ナリ山ノカト称子トハ山賊ヲ貴メトビタル詞ナリ
古キ軍物語ニハナジロニツキアヒタリトアルハ敵味方
思ヒモヨラス出合テ互ニビツクリシテ臆オソシタル古又ヲ

イフニヤ鼻ハナ白シロハ臆オソシタル古又ナリ臆オソスレバ鼻ノ白
クナルナリ源氏物語オクシガチニハナシロメル人
オホカリト見エタリ

○雜袍ザソウヲカ轉ユトハ宿衣シヨクエ直衣チキヲ着キシテ御前ミマエヘニ
井ル古又ヲ御免アル古又コウヲイヘリ

○冠ハ束帶衣冠直衣ノ時用ラルナリ其外ヒタシ真マコ垂シ狩
衣ノ時官位カミニヨリ或家ウチニヨリ或年トシ齡シニヨリテ
立烏帽子風折烏帽子等ヲ着用セラルハナリ
古代ハ狩衣ノ時ニモ冠ヲ用ラレシ例モアリト
○束帶ノ時冠ノ懸緒カミ上ウヘ地下シモオシナカミテ紙カミ拾ヒヲ

用井ラ^ル衣冠直衣以下^ノ時或鳥帽子着用^ノ時
紫ノ組懸ヲ聽テ用井ラ^ルナリ紫ノ組懸ハ元
末蹴鞠ノ装束ニツキタルモノニテ飛鳥井家ノ
執奏ニテ御聽アルナリ地下ハ一向聽カギリニ
アラス武家方モ侍從以上ノ御人奏聞ヲ
歴テ勅許ノ上ニテ飛鳥井家ヨリ出サルナリ
此ワケヲシラヌ人ハ飛鳥井家ヨリ私ニ免サル
、^{又ノヤウニ思ハリ}

○堂上方紫ノ奴袴^{サレヌキ}モ年齢ノカサナルニシタガヒ
テ次第ニ色ノ薄クナルナリ世々ニ及テ淺黄ヲ
用井ラ^ル是モ次第ニ薄クナリテ後ハ白キガゴト
クナリ極老ニイタリテハ一向白キ奴袴ヲ用井ラ^ルト
ナリ

○紫ノ奴袴ハ武家方ニタヤスク用サラザル所ニ
近比朝鮮人未聘ノ時ヨリ御沙汰アリテ四位以
上ハ薄色ノ奴袴ヲ着用セラ^ルトナリ

○奴袴等ノ紫色ハ^{タテヌキ}縹^{ヌキ}トモニ紫ニ染タル系ニテ織^タ
薄色ハ^{タテヌキ}縹^{ヌキ}白系ニテ織ナリ是ヲ織色ト云ナリ
白地ヲ染タル^{色ト云ナリ}作^ル色ト云ナリ
淺黄モ亦カクノゴトニスベテ何色ニテモ織色ト云
テウルハシク色モカラズ付色ハ早クアセルナリ

萬ノ衣服ニ白裏ヲツクル夏ハ若キ夏ナキ夏ナリ直
衣狩衣ノ白裏ハ極老人ノ用ルモノナリ上達部トイ
トモ年若キ時ハ白裏ハ用井ラレ又故實ナリトソ
直垂ハ元来武家ノ製作ノヨシナレドモ堂上^{子リセイガウ}ノ方ニ
モ内々是ヲ用井ラル、ヨシナリ堂上ハ練精好ヲ用井
ル^{ヌノヒタニレ}地下ノ諸大夫ハ布直垂^{俗ニ云}ナリ武家方ニテモ
四位五位ノ侍從以上ハ練精好ノ直垂ヲ着用セラ
ル五位ノ諸大夫ハ布直垂ヲ用井ラルトナリ

武官^中帯劔ハ勿論ノ夏ナリ武官ニアラストイ
トモ侍衛^{中務侍從内}ノ官ハ帯劔ナリ其外^モ文

官ハ大臣以下帯劔シ給ハズ然ドモ東帯ノ時ハ威
儀ノタメ申聽テ帯劔セララルナリ是ヲ勅授帯
劔ト云ナリ

武官ノ劔^{ヤハ}ノ又ハ長短其人ノ意ニカセナリ文官
ノ勅授帯劔ハ又ノ長五寸以上ハ制禁ナリ是式
定メナリ

堂上方ハ直衣衣冠以下ノ時帯劔シ給ハズ然ト
モ品ニヨリテ帯劔アル夏古代例モアリ希有ノ
夏ナリ武家方ハ衣冠ノ時トイヘトモ帯劔常
例セラルトナリ閑東ノ御使侍從以上ノ人及諸

司代等参内ノ時ハ無カニテ野劔或鞞卷劔ヲ携サヤニキラレ是モ殿上ノロニサレヲカル、ヨシナリ。

○往古劔ノ装束ハ大臣ノ時ハ金装束ユカキツクリ大納言ニテハ銀装束シロカチツクリニテアルベケレドモ近比ハアルニカセテ用ウ

ルヨリテ金銀ノ沙汰ニ及バザルト桃華御記見エタリ其比ヨリミダリガハレシナリタルト見エタリ

肥後國球麻郡ヲ彼所ノ卑賤ノ人多クハ球麻ノ國トイヘリ他國ノ人は是ヲ羨フナリ喧樂磨按ズルニ是

必誤ニアラス如何トナレハ郡ノ音クシナリクシラクニト訓スルハ和音ナリ丹波ヲタニハ難波ヲナシハ蘭ヲラ

日本書紀十七
體記
繼體記ニモ春
日皇ヲ春日ノ
國トヨムル歌アリ

ニ紫花ヲシニト訓スルガゴトシ又万葉集ニ吉野ノ國泊瀨國其外名高キ所ヲ國トヨミタル歌多クシ

サレハ球麻ノ國トイヘルハ誤リニアラサルナリ神武紀ニ男軍女軍トアルハ正兵奇兵ニテ追手

搦手ノ古又ナルニヤ往昔刀トイヒシハ今テノ小刀ノ事ナリ大ナル刀出

来テヨリ小刀ノ名ヲ得タリトナリ脇指ハ又後ニ出来タルモノナリトイヘリ

布直垂布衣素袍袴等ヲ着スル時小刀ヲ帶スル古来ノ例ナリ路頭ナドハ野劔或鞞卷ノ太刀ヲ

携ル支ナリト常ノカラ指添ル支ハ頗略儀ナリ
トイヘリ

後世イテキタルモノ各ト文字トアタラヌモノ
多シ上下羽織カミシモッオリ大小類ナリ今云脇指ハ小刀ニ
テコガタナ小刀ハ脇ザシナルベシト或人ノイヘリ
紙イカボリ鸞ハ春ノモノニテ俳諧連歌ニモ二月ノ季ニ用
ウルナレトモ大坂ナドニテハ五六月西國邊ハ七八
月ニ兒童ノモテアソブナリ

近江國守山今ハモリ山トイヘドモ古ハモル山トイ
ヒケルニヤモル山トヨメル古歌多シ

渡唐天神ノ畫影ノ説ハ信用シガタキモノナリ是
必菅神ニアラザルヘシ難波津ニサクヤ此花冬ニ
モリ今ヲ春ベトサクヤ此花ト詠ゼレ百濟ノ王仁
ノ像ナルベシト或人ノイヘリ

東鑑寛元四年四月廿日ノ記曰左馬頭入道正義
自美作國領所稱將來之由獻猿於御所彼猿舞
蹈如人倫大殿並將軍家召覽于御前為希有
夏之旨及御沙汰教隆云是匪直之夏歎云是ヲ以
テ見レハ猿舞ハ寛元以後ニ出来タルモノナルヘシ
文字トハ元来一字ヲイフニアラズ獨體ヲ文トイ

ヒ合體ヲ字トイフ譬ハ中心人言ハ各獨體ニテ
文ナリ忠ト信トハ合體ニテ字ナリ然トモ獨體
合體トモニ文字トイヒ字トバカリ云々古来ノ通例
ナリ

宇留麻嶋トハ琉球ノ事ナリ彼所ハ素戔彥尊
ノ神幸アリタル所故ニヤ我國へ通ズル詞多
シトナリ少童ノ名モ太郎兼カタル松次郎シツ
真三郎フルサナトハイフ名モアリトイヘリ

屠兒ハエトリト訓ズ畜類ヲ屠ルモノナリ鷹鳥
ノ餌ナドヲトル故ニエトリトイフトナリエトリヲ
訛リテエタトイヒレヨリ穢多ノ字ヲ用ウル者又
ニナリ又ト或人ノイヘリ

大猷院將軍家寛永御上京ノ度二條ノ西カサ
薮ノ廐ヲ建ラレ其後京内外ニ居所ナキ非人
ニ小屋地ヲ賜リタル時彼廐ヲ頒賜リタルトナリ
今ニ所々ノ非人ノ小屋地ニ瓦葺ノ長屋アガチアルハ
是ナリ

南無阿彌陀佛ノ稱名ヲナモウダ或ナニイダ
イヒセメフセル時ハナクト云フハ稱名ニハアタラ
サル者ト思ヒレニ能ク考レバ皆音義ニ叶ヒタル名号

太閤ト申シタル夏アレドモ今テオイトハ接^標関ノ
御父ナラフテハ申サヌヤウニナリタリトナリ
指ヲ屈^{カマ}テ物ヲカゾウルニヨリ五ニテハ將指^{カマ}食指
中指無名指小指ト順ニ屈メ六ニイタリテ將指ヲ伸^{カマ}
七ニ食指ハ中指九ニ無名指十ニ小指ヲ伸スベシ
六ニ小指ヲ伸セバ自然ニ四ト六トニギル、古又アリ
牙ノ四ツアル大^{クサクラ}叢ニ井ル鳥ヲ能^{ツカキ}臭^{ツカキ}シルモノナリト
古書ニ見エタリ

大ヲイレテ叢ノ鳥ヲカルニ風立タル日鳥ノ居所
ヲ大ノヨク臭^{ツカキ}シルナリ大^{ノドカ}氣^{ノドカ}和^{ノドカ}ニシテ暖^{アツカ}ナル日ハレレ
ガタキモノナリカル時ハカラント思フ叢ノアタ
リニ犬ヲメテオキテ三四五間ハカリモコナタヨリ
十人ハカリ扇ヲモテアフゲハ自然ト其氣ニツレ
テ犬ノ方ヘ鳥ノニホヒノスルモノナリト或人ハイヘリ
六日ノ菖蒲ト云諺ハ菖蒲ハ端午ノ節ニ用井ラ
ルナリツトメテ六日ノ後^{ゴエン}宴^{ゴエン}ニモ亦用井ラルレハ何ニ
ヨラス^{ヒトツ}先^{ヒトツ}スギタル夏又ハナヤカニ勝タル夏ア
レハ六日ノ菖蒲ニメトヘタルナルヘシ
草薙、劔ノミツカテヌケ出テ草ヲナギタルト云
夏ハ劔ヲ靈ニ云ハンタメニ書キタル夏又ニテ史書ノ常

度會傳在
伊勢大内倉
早田郷守ノ
トナリ

ナリト度會清在ノイヘリ、噺樂磨戲テイフ、
劔ノ三ツカラヌケ出テ、草ヲ薙ヨリ、賊徒ノ首ヲ
キラシハシカジ、

伊勢ト三輪ノ神ハ體分身ニテ一ニエト世人ノ
イフ、又ナリ三輪ノ神、天照太神ノ御姪ナリシカレバ一體
ノ御子ナリ、天照太神ノ御姪ナリシカレバ一體
分身トハ申レガタレ、御伯父姪ヲ一體分身ト
イハシ、神代ノ神達ハ多クハ一體分身ナルヘシ、
相撲ニ最手、助手、掖手ト云モノアリ、最手ハ今
俗ニ云、閑取、助手ハ閑脇、掖手ハ小結、又ナリト、

或人ノイヘリ、

○上北面ハ諸大夫、下北面ハ侍ナリ、上ハ清音、下ハ濁音、
イフガナラヒナリ、

左衛門、右衛門、左兵衛、右兵衛ヲ呼名ニ用ルナレバ、
奇異ヲ好ム人ハ左近衛、右近衛トモ呼名ニシク、人キ
又ニヤトオモハル、

帶刀ハ春宮坊アル時、是ヲ神セラル坊ナキ時ハ神
セラズ、然ニ帶刀ヲ呼名ニシク、人多シアルベウモ
ナキ、又ナリ、帶刀ヲ呼名ニ用ルカラハ、丈、首ニテ
奇異ナル名ヲ好ム人ハ瀧口ナド、云呼名モ用ベキ

ニヤト思ハル

罪人ヲハリツケニカクル^ハ古^ハ六十キ^ハ是
元来^ハ耶蘇宗ノ法ニテ永禄元龜ノ比ヨリ起リ
タリト^ハ或書ニ見エタレド平家物語ニハリツケ
ノ古見エタレバ往昔モアリシ^ハ今昔物語ニモ
殺スト見^ハハリツケニテ射

殺スト見
エタリ

垣下^{ガノガ}座トハ舞樂等ノ時舞人樂人ナトノ著座

スル所ナリ此外公古ノ時モアル^ハ地下ノ

座ニテ饗ナドニツク所ナリ此所ニテ舞ナドアル時

ハ堂上ハ見エス此故ニ俗ニ暗^カハヌ^ハ垣下ノ舞

トイヒケルニヤ後世ノ俗諺ニ縁^エノ下^ノ舞ト云^ハバ

垣下ノ舞ヲアヤマリタル^ハヘシト或人ノイヘリ

和泉國堺ヨリ出ル湊紙^ニト云^ハ所ハモト宿紙紙

紙^トヨリヤツレスキタルモノナリトイヘリ或俗書ニ後

醍醐ノ御時南朝ニ居タル紙工堺^ハウツリ宿紙ヲス

キレヨリ此漆紙モ彼所ノ名産トナリタルト云^ハバ

樂唐按ズルニ兵範記仁安三年九月七日記ニ堺

紙又堺紙屋紙ト見エタリ是ニヨレバ堺ヨリ宿紙ヲ

出シタル^ハ南朝ノ時ヨリハルカニ古キ^ハ見エ

タリ

或云
カイモト

或俗書ニ宿紙ハ
紙ニ禁中ニ宿直
ニテ流ユエ宿紙
ト云トナリ宿モ
紙ハモト熟紙ト云
ヌラシメ所會
ニ説笑ニシク

相撲ノ節ヲ行ハレシ時是ヲ奉行スル人ヲ行ヌトイ
ヒトナリ後世ハ相撲ノ勝負ヲ見ワクル人ヲ行
ヌ云フハヒガメルヌナリ見證サシマツトイフヘキニヤ
伴嘉次トイヒシ人ハ和歌ヲ好ミ冷泉家ノ御門
弟ニテアリシ或時難波へ下リ壬生卿ノ古塚ニテ
手向ノ歌ヲヨミテ大納言為久卿冷泉卿ノ御覽ニ入レシ其詞
書ニ家隆卿ノ塚ニウテト書タルヲ御覽シテ彼
卿ハ公卿トイヒ歌道ノ高名世ニ重シズル人ナリ
カル人ノ名字ナドヲ書事ハアルベウモナキ又
ナリ壬生卿トナリトモ壬生ノ二位卿トナリト
モ書ベシト大キニ御イニシメアリタルト嘉次ノ千
ニカタリシ

難波ノ伏見ノ里ハ今ノ三津八幡ノ社邊ナリト平ナラ
城都ミヤコノ伏見ノ菅原ナリ平安城ノ伏見今ノ伏見
ナリ伏見ノ和訓ハ伏フシヲカ拜カニノ略訓ナリトソ伏
見ト云ハ古ヘ旅行ノ人遙ハルカニ都々方ヲ拜テ通り
タル所ナリ神社ノ遙拜所ノゴトハ八幡ノ伏拜伏拜ナ
ド古書ニ見エタルモ山下ヲ通ル人々遙拜シテ通
リタル所ナリトイヘリ
世俗ニ墓ニ立ル石ヲスベテ石塔ト云ハ僻古ナリ

石碑トイフキナリ^リ喪葬令ニ凡墓皆立碑トアル是
ナリ石塔ト云塔婆ハ形ヲ石ニテ造リタルヲイフナ
リ北野石鳥居ノ傍^{カク}及大佛ノ耳塚ニアル類ヲ
石塔ト云ナリ
麻ヲ績^ウテ納^ル器ヲ麻^ケ筒トイフ俗ニヲゴケト云
是ナリ^リ万葉集ニハ績^ケ筒トアリ^リ桶ヲケト訓
ズルモ麻^ケ筒ニ似タレハナルベシ
順和名抄ニ曰今雅集註云蠖蟻小虫乱也礎則
天風春則天雨云云蚊か餅ヲツクトイフ諺ハ是
ナルヘシ

鏃ハ古来夜^ヤ佐岐^{サキ}ト訓ス夜^ヤ之利^リト云フハ俗言ナリト
順和名抄ニ見エタリ矢印ニ姓名ヲ書付ルニ鏃^{ヤサキ}ノ方
ハ文字ノ首^{カシラ}ヲ向フヤウニ書ヘシ
漢字ニ假名ヲ付ルモハナツメモナレトモ童蒙
ニ便セシハ然ルヘシ和語ノ文字ニハ假名ヲ付ザルバヨ
ミガタキモアリ漢音ノ假名ハ韻書ヲ見テカ
ヘシノ音ニテツクベシ和語ノ假名ハ日本紀以下ノ史
類和名抄^リ万葉集^リ新撰万葉集^リ等ヲ見テ證ト
スベシ今世ニ行ハル印板ノ歌書物語ノ類ハ傳寫ノ
誤^リ多シテ證據ニナリガタニスベテ假名ハ五十韻ヲ

学テ音義ヲ知ベシ和漢ノ音儀ハ五十韻ヲヨク
合点スレバ誤リハスクナキモノナリ詩文章ノ法
式アルモノハサシオキテ論ゼズ物語ノ類ヲ漢字
ニテカケハ助語字ヲスユレワキニヌレバサノミ誤リ見
エガタキモノナリ和語ノ假名書ハテニヨハ或正訓
変訓ノ添字ヲ能ク辨ヘザレバアラヌ又ニ聞ユル
又多シ文才ノ浅深ハ假名書ニテヨク見ユルモノナリ又
和語文章ハ人ノ言ナレハ假名ヲ誤レバ人ノ斤言ヲイ
フカコトシ学者ナゾ是ヲ恥サラヤサレバ粉骨碎
身ニテモシルベキモノハ假名ナリト先達ノイハレ

シナリ

蝙蝠或扇子ヲ隨身スルニ常ニキニ持ザリ懷中
ノ時ハ柄ノ方ヲ懷ニサシイルナリ右ノ方ノ腰
ニサス時ハ^{ユサシ}笛指トイフ後ニサスヲ^{ヤサグイサ}矢筈指トイ
フ左ノ腰ニサスハナキ又ナリト或人ノイヘリ

蹴鞠ノ時扇子ハ^{ユサシ}笛指矢筈指或左ノ手ニ持ナ
リ右ノ手ニハモメヌモノナリトイヘリ

天照太神ヲ女神ト申奉ル又ハ正史ノ説ナリ
世説ニ陽神或陰陽合體ノ神靈ナド申奉
ル又ハ無用ノ贅説勿体ナキ又ナリ

楊名、女ハ古来秘説ノヨシ云傳ヘタレハ今テ七女ニ云ヒガ
タシ楊名ノ二字ハ國司ニカギラス諸官ニモアルキ
事ナリト思ハル清慎公御記ニ楊名関白ト云
又モ見エタルヨシナリ

姓氏ハ神武天皇御宇ヨリ始リタリトイヘトモ
神世ヨリアリタル又明アキラカナリ神代下卷一書曰
皇孫勅天鈿女命汝宜フ以所顯神名為姓氏焉
因賜猿女君之號故猿女君等男女皆呼為君云
往古ムカシ香トイヒシハアハセ香ニテ薰物クニモノノ又ナリ
中ナカ古ヨリ伽羅ヲモテアソビ薰物クニモノノ賞翫ウツクシウ

スナナリタリ後世ハ香トイヘハ伽羅ニカギリ
テイフ又ノヤウニナリタリ

香ノ式八十炷香ヲ本ニシテサレノ法ハ皆ノ
千ニイデキタルナリ其中ニ公ノ製アリ或高
貴ノ御人ノ定ラレタルモアリ往々好事ノ人
種々ノ法ヲユシラヘタル又勝計アゲテカケカタシ其名
目記メジニイトナシ

源氏香ノ圖ハ竝初ヨリ其圖アルニアラス五炷
ノ香ヲ試シロシオボエタル次第ヲ書キルスニ自然
ト其圖イデタルナリ圖ノツクリヤウ大概左ノ

ゴトシ

源氏香ハ香五炷ナリ五炷ノ内一ノ香五包二ノ香
五包三ノ香五包四ノ香五包五ノ香五包合ニ十五
包ヲ打交テ何ナリトモ其内五包トリ出シ香
本ヨリ一包ヅ、タキ出ス譬バ一二三四五皆カハ
リタル香トキケバ四如此圖ヲ各乘紙ニ書
キ一四カハリ二三五同五トキケハ四如此書
キ三三同香ニテ二四五カハリタル香トキケハ四
如此書キ一三同香二四同香五カハリタルトキ
ケハ四如此書キ一三同香ニテ二四五同香ト

香

キケハ四如此書ナリ餘ハ是ニナラフヘシ如此キ、
タルオボエ次第ニ圖ヲツクレバ自然ト五十二ノ圖
出来ルナリ

系圖香ハ四炷ナリ一炷ヲ四包ツ、ニシテ合十六包ヲ
折六分テ其内四包ヲ次第ニタキ出スキ、ヤウ
番ノツクリヤウ源氏香ニ同シ是モ自然ト
五ノ圖出来ルナリ

武者繪ニカ
朝三〇如此
モリ弦卷
ヲ解ニツラキ
ハ此傳ナレシ

鞘

往古ハ宿衛ノ官人ガウ箭ヲ帶シ大カニ弦袋ヲ
ツケタリ弦袋トハ弓ノ弦ヲ入ル袋ナリ革ニテ
製リ革ノ緒ヲツクルナリ製様秘傳アリトシ
近代ハ軍陣ナドニ弦卷ト云モノヲカノ鞘ニツ
ラヌキテ持タリトナリ弦卷ハ藤葛ニテ製

ルナリ今近江國水口ニテ是ヲツクリテヒサク
戰國ノ時敵地ノ圖ヲ得テ地理ヲヨクワキニヘテ
其所ヲ攻取タル多ク異國ニハ此例勝計ガメ
ニサレバ民部省圖帳風土記ナトノ七ヒタルハ
ヲシキ多ナレドモ諸國ノ地理ヲ普ク人ノシラシ
モ時ニヨツテヨカラヌ多ナリト先達ノイヘリ
堂上方歌ノ會席ニ古ヨリ人丸ノ畫影ヲカケラ
レタリ享保年中正位ノ神階ヲ授ケラテヨリ
神靈ノハハカリアレハ彼神影ヲカケラレズ其カ
ハハニ京極中納言^{定家卿}郷ノ畫影ヲカケラルトナ
リ是ヨリコノカタ京極卿ノ御名字ナドハ妾リ
書物ニモカレシス况常ノユトバニモ御名字ハ稱
シ給ハヌ多ナリト云リシ

大臣ハイフニ及ハス大中納言參議散三位以
上ノ公卿ノ名子ハ凡下ノ人ハ妾ニ書物ニモ
カヌ多ナリ然トモ紛ラハシキ多アリテカ
ガレハ叶ハヌ多モアリ時宜ニヨルヘシ清女枕草
紙ニモ上達部^{ヤシタチ}ノ御名カクベキアララスト見
タリ

舞樂ヲレニジノニヒト云ヌハ^{カタエト}斤言ノヤウニ覺

シガ慶長三年七月廿九日才ユドノ、記ニシ
シノニヒト見エタリ、伶人ノ舞ノ略言ナルヘシ



